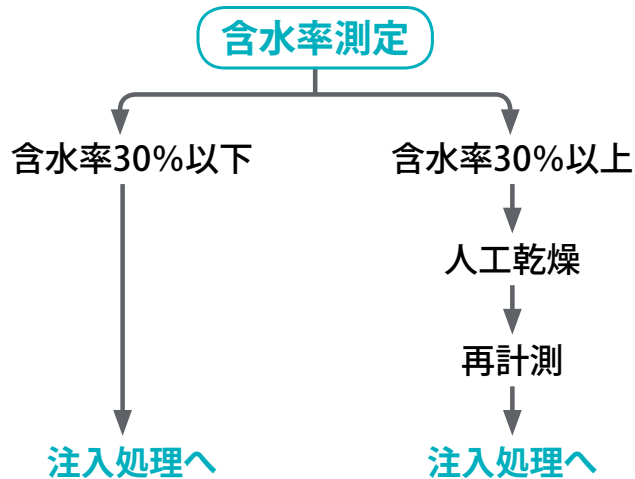


## 保存処理のポイント

### ポイント① 含水率のチェック 加圧注入処理を行う前に、木材の含水率を計測します。

材料の含水率管理を行うことで薬剤が最適に浸透しやすい環境をつくれます。



注入処理前に、原則としてロットの平均含水率を30%以下に調整します。  
(JIS A 9002：日本工業規格木材の加圧式保存処理方法より)

注入処理前の木材が含水率30%以下でないと十分な保存効果は期待できません。

### ポイント② 薬剤の濃度管理 定期的に薬液をサンプリングして濃度検査をしています。

薬剤の濃度は屋外での接地する箇所でも耐えられる薬剤濃度としています。

#### 薬剤濃度

タナリスCY	ペンタキュアニューBM
CuAz 濃度	DDAC 濃度
0.3% 以上	1.6% 以上

上記2種をしております。用途に合わせて提案します。

### ポイント③ 薬剤の注入量管理 注入処理毎に注薬設備運転記録管理しています。

薬剤の濃度と同様に屋外で接地する箇所でも耐えられる注入量としています。

#### 注入量

タナリスCY	ペンタキュアニューBM
250kg/m <sup>3</sup> 以上	250kg/m <sup>3</sup> 以上

(標準目安)

上記2種をしております。用途に合わせて提案します